

CONTENTS

特集 Special Features **ライフログ****Life Log**

- 590 編集にあたって 大橋正良
Foreword Masayoshi OHASHI (ATR)
- 592 1. ライフログの実践的活用：食事ログからの展望 相澤清晴
Food Log and Future Prospect of Life Log Kiyoharu AIZAWA (The Univ. of Tokyo)
- 598 2. プライバシ保護を考慮したケータイ行動ログの利活用について 佐藤一夫
About the Profit Use of the Cellular Phone Behavioral Data that Considers the Privacy Protection Kazuo SATO (NTT DOCOMO, Inc.)
- 603 3. ケータイ・ライフログとしての実空間プロフィールと流通・管理技術 小塚宣秀・森川大補
Mobile Life Log Distribution and Management of Profiles in Real World Nobuhide KOTSUKA (KDDI R&D Labs. Inc.) and Daisuke MORIKAWA (KDDI Corp.)
- 613 4. ライフログに基づく実世界でのコンテンツ利活用 木俣 豊・是津耕司・河合由起子・水口 充・宮森 恒・柏岡秀紀
Utilization of Digital Content Based on Life Log in the Real-world Yutaka KIDAWARA, Koji ZETTSU (National Institute of Information and Communications Technology), Yukiko KAWAI, Mitsuru MINAKUCHI, Hisashi MIYAMORI and Hideki KASHIOKA (Kyoto Sangyo Univ.)
- 624 5. ライフログ経験：センサが人生を変える 矢野和男
Life Log Experience: Sensors Change the Life Kazuo YANO (Hitachi, Ltd.)
- 633 6. 虚血性心疾患に対するライフログの可能性 中川晋一・八尾武憲
Possibility of Improvement for the Better Prognosis of IHD (Ischemic Cardiac Disorders) Patients with Life Log Shin-ichi NAKAGAWA (National Institute of Information and Communications Technology) and Takenori YAO (Shiga Univ. of Medical Science)

小特集 Special Features **「あの時代」に想いをはせて
証言者達からのメッセージ****Looking Back upon 'That Age,' the Dawn of PC, UNIX and
the Internet -As the Memories of Professor Ishida-**

- 641 編集にあたって 中川晋一・川合 慧
Foreword Shin-ichi NAKAGAWA (National Institute of Information and Communications Technology) and Satoru KAWAI (The Open Univ. of Japan)
- 643 1. そこにはいつも、先生の本がありました—出版を通じてのご貢献— 小山 透
The Great Contribution through Publishing - There Have been Various Prof. Ishida's Books Tohru KOYAMA (Kindaikagaku-sha Co. Ltd., former the Editor in Chief of Magazine "bit")
- 647 2. 情報化時代の幕開け—みんながコンピュータに熱中した時代からのメッセージ— 青山幹雄
Brave New Software World Messages from the Enthusiasts in the Information Revolutionary Age Mikio AOYAMA (Nanzan Univ.)
- 651 3. 「情報処理」大変革の夜明け前—石田編集長の誕生に向けて— 諏訪 基
Towards Reformation of IPSJ Magazine and Employment of the New Editor, Dr. Ishida Motoi SUWA (National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities)
- 654 4. INET91, ISOC, INTEROP, IAJ—石田晴久先生とともに 高橋 徹
With Professor Ishida to INET91, ISOC, INTEROP and IAJ Toru TAKAHASHI (Internet Association Japan)
- 657 5. 石田先生から受け継いだもの 砂原秀樹・村井 純
Taking over the Baton from Prof. Ishida Hideki SUNAHARA and Jun MURAI (Keio Univ.)

平成 20 年度論文賞の受賞論文紹介

The Heisei 20 IPSJ Outstanding Paper Award

- 672 編集にあたって 喜連川優・柴山悦哉・伊藤 実・朴 泰祐
Foreword Masaru KITSUREGAWA, Etsuya SHIBAYAMA (The Univ. of Tokyo), Minoru ITO (Nara Institute of Science and Technology) and Taisuke BOKU (Univ. of Tsukuba)
- 673 芸術と工学 古田陽介
Design and Architecture Yohsuke FURUTA (Univ. of Tsukuba)
- 674 アンドロイドロボットを用いた対話研究 坂本大介
Interaction Studies with Android Robots Daisuke SAKAMOTO (The Univ. of Tokyo)
- 675 棋譜から学ぶ将棋プログラム 金子知適
Learning Shogi Styles from Game Records Tomoyuki KANEKO (The Univ. of Tokyo)
- 676 フィッシング詐欺撲滅に向け奔走した研究生生活 中村元彦
My Crusade against Phishing Fraud Motohiko NAKAMURA (SOFTBANK TELECOM Corp.)
- 677 名前管理という石の上で 10 年 土井裕介
Sticking 10 Years on Research in Name Systems Yusuke DOI (TOSHIBA Corp. / The Univ. of Tokyo)
- 678 アナログとデジタルの境界で 高橋健太
A Protocol for Secure Remote Authentication Using Biometrics Kenta TAKAHASHI (Hitachi, Ltd.)
- 679 モバイルアドホックネットワークにおけるデータ管理技術 原 隆浩
Data Management Techniques in Mobile Ad Hoc Networks Takahiro HARA (Osaka Univ.)
- 680 推薦システム研究を振り返る 岩田具治
On Collaborative Filtering Efficiently Using Purchase Orders Tomoharu IWATA (NTT Communications Science Labs.)
- 681 「だまし」の技術 山田浩史
Trick Technology Hiroshi YAMADA (Keio Univ.)

平成 20 年度長尾真記念特別賞紹介

The Heisei 20 IPSJ Nagao Special Researcher Award

- 682 編集にあたって 喜連川優
Foreword Masaru KITSUREGAWA (The Univ. of Tokyo)
- 683 グラフとネットワークの機械学習の確立を目指して 鹿島久嗣
Machine Learning Methods for Graphs and Networks Hisashi KASHIMA (IBM Japan, Ltd.)
- 684 ロボットを用いた新しいヒューマンインタフェースの研究にむけて 神田崇行
Towards a New Human-interface Research with Robots Takayuki KANDA (ATR Intelligent Robotics and Communication Labs.)
- 685 今の時代に研究ができる幸せ 後藤真孝
We Are Happy Because We Can Research in the Present Times Masataka GOTO (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))

平成 20 年度喜安記念業績賞紹介

The Heisei 20 IPSJ Kiyasu Special Industrial Achievement Award

- 686 編集にあたって 土井美和子
Foreword Miwako DOI (TOSHIBA Corp.)
- 687 C&Cの夢、自動通訳の実現に向けて 奥村明俊・磯谷亮輔・山端 潔・花沢 健・渡辺隆夫
Towards a Dream of C&C, Speech Translation Akitoshi OKUMURA, Ryouyusuke ISOTANI, Kiyoshi YAMABANA, Ken HANAZAWA and Takao WATANABE (NEC Corp.)
- 688 音声 Web アクセス 浅川智恵子・高木啓伸・福田健太郎・伊藤 隆・前田潤治
Voice Web Access Chieko ASAKAWA, Hironobu TAKAGI, Kentarou FUKUDA, Takashi ITOH (IBM Japan, Ltd.) and Junji MAEDA (IBM Business Consulting Services)

その他

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 689 有料会告について | 703 アンケート用紙 |
| 690 会員の広場 | 704 編集室／次号予定目次 |
| 692 IPSJ カレンダー | 705 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| 694 おふいすらん | 706 賛助会員のご紹介 |
| 695 人材募集 | |
| 702 論文誌ジャーナル掲載論文リスト | |



星新一のショートショートにこんなロボットが出てくる。博士のところに友人が来て、新しくできたロボットを見せてもらう。一見何の変哲もない人型のロボットだが、主人の手伝いは一切せず、ただ傍で見ていただけ。重いものを運ぶわけでもなく、犬に吠えられても主人の後に隠れてしまう。お茶も入れず掃除もせず、ただただ主人について動いている。あきれた友人が帰ったあと、1日の終わりになって寝るときに博士は言う。「さあ、今日の日記を書いておくれ」。「なぞのロボット」という題だったと思うが、「日記を書くこと」に対する万人の想いの見事な表現である。

大学の研究室で、10年以上前から自分の日記を仲間に公開する遊びが広まっていた。何が面白いのか、といぶかっているうちに、そのインターネット拡大版であるブログが流行り始め、あっという間に広まりCGMの一翼などともてはやされている。このような「自分の記録」を残したいとか公開したいというのは、人間の心理として自然なのであろうか。

今月号の特集は「ライフログ」で、橋本真幸、大橋正良がエディタ。身体データの24時間連続記録を可能とする「ライフ顕微鏡」や、周囲の環境の認知や装着者の動きをとらえる「ビジネス顕微鏡」を使った「ライフシグナルズ」と呼ぶご託宣システムの話は、無意識に収集される詳細日記的なデータの分析によるという。大量データから「組織統計力学を構築する」というくだりは、心理歴史学を思い起こさせるが、こちらには「法則」が発見されているらしい。「人生が変わった」具体例を読むと認知行動療法との関連も知りたいところである。食事のログを画像だけからやってくれるシステムは面白い。さらに、ユーザの記憶を拡張する支援機能に着目したり、実世界情報との融合を含めた情報管理手法など、面白そうな話題はたくさんあるが、まだまだ方向性を探っている段階のように思える。本特集には、循環器内科の医師であり、かつ情報技術の研究者である人が、急性心筋梗塞を発症してから生還するまでのドキュメントと、ライフログを含むIT環境に言及している記事もある。なかなか迫力があり、脳梗塞を起こした脳科学者の“実況中継”を思い出した。

本号の小特集は『あの時代』に想いをはせて一証言者達からのメッセージで中川晋一、川合慧がエディタ。急逝された石田晴久先生が力を尽くされた情報環境、とくにパーソナルコンピュータやネットワークの発展に想いをはせ感謝するとともに、「あの時代」に関するまとめ的な内容を目指したもの。元bit編集長の小山透氏による、出版界から見た石田先生の思い出が興味深い。「プログラミング言語C」については、「こんなもの出しても売れませんよ」とコメントした不明の輩としても懐かしい限り。

「LSI3次元実装技術の最新動向」(栗田洋一郎)は、平面的なLSIをただ重ねるのではなく、チップ内を縦に接続したり、ゲート単位に縦に重ねたりして、密度を高める話。

「平成20年度論文賞の受賞論文紹介」は柴山悦哉がエディタ。昨年度から選定方式が変わり、論文誌ごとの選定となった。

「平成20年度長尾真記念特別賞紹介」(エディタ：喜連川優)と「平成20年度喜安記念業績賞紹介」(エディタ：土井美和子)は、それぞれの“業績”に与えられる賞の紹介。

*The Whisky Cat*はC.W.ニコルの小品。スコットランドの老舗の酒蔵には猫が必ずいるらしい。発芽させるまでの大麦を狙う鼠や小鳥を追い払ったり退治したりするのが役目。猫を船に乗せるのと同じ理由。猫と人間との共生がほほえましい。この*Whisky Cat*も、老齢とか鼠との大立回りで命を落とし、代替わりしてゆく。本欄も「もう1つの目次」という見回りの役目から、そろそろ引退することにしよう。余生が暖かい暖炉の傍るか倉庫の片端かは分からないが。

(*Whisky Cat* こと川合慧)



会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

武田 浩一

塚本 昌彦

本号エディタ

位野木万里

大橋 正良

兼宗 進

喜連川 優

久門 耕一

胡 振江

佐伯 元司

柴山 悦哉

白木 善尚

田中 哲朗

田中 秀樹

土井美和子

中川 晋一

橋本 真幸

長谷川 亨

細川 晃平

前田 英作

間瀬 久雄

松原 仁

山之内 徹

山本里枝子

編集スタッフ

後路 啓子

中村小枝子

町田 善江

綿谷 亜樹